Fisuel ニュースレター

2016年12月

FISUEL創立者及び元会長（2002～2005年）のPhilippe ANDRÉ氏が2016年末をもってFISUELでの活動を終了

2016年11月7日（月）にフランス・パリ近郊のピュトーで開催されたFISUEL理事会において、仏CONSUEL（電力需要家安全全国委員会）代表のPhilippe ANDRÉ氏がFISUELでの活動を終了する意向を発表しました。

FISUEL会長の中村秋夫氏は、ANDRÉ氏が2002年にFISUELを創設し、世界の電気保安の標準団体とすべく長年にわたって多大な尽力をして来たことに感謝の意を表しました。勇退に伴ってANDRÉ氏はFISUELの名誉会長に選任されました。ANDRÉ氏に代わる新たなCONSUEL代表として、CONSUEL会長のJacques Wetzel氏がFISUEL理事に、CONSUEL最高経営責任者（CEO）のMichel Faure氏がWetzel氏の代理に就任し、ANDRÉ氏の任期終了までそれぞれの役割を務める予定です。

FISUEL前会長のJoséTomaz　Gomes氏は、「ANDRÉ氏と共に働きながら、電気利用者の安全に貢献する様々な構想を推進できたことを光栄に思う」と述べました。FISUEL理事会一同並びに加盟団体一同からも、このニュースレターの場を借りまして、ANDRE氏の功績に感謝の意を表します。

FISUEL ウェブサイトと　SAFETYBAROMETER

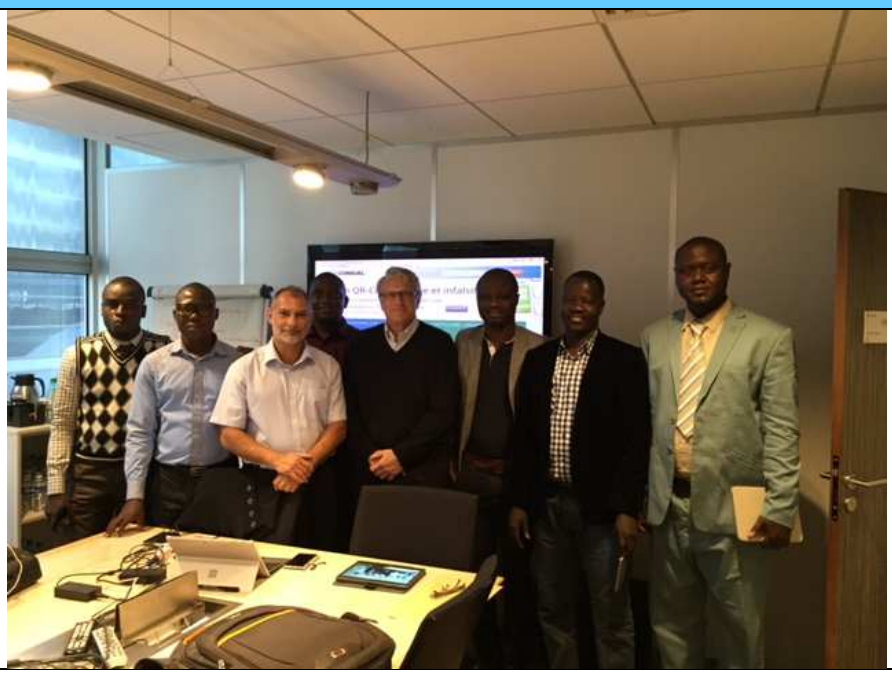
2016年10月から、FISUELウェブサイト経由でSafety Barometerのウェブサイトを直接閲覧できるようになりました。

住宅電気設備の安全性を極限まで高め、電気火災や感電死事故のリスクをほぼ無くすことは可能です。ただしそのレベルの安全性を確保するためには、最適な設計、工事／設置、点検の実施が必要です。しかし現実には、そのための適切な基準や規格、規制、教育の整備が世界の大多数の国々で十分にできていないのが実情です。Electrical Safety Barometer（電気保安バロメーター）は、各国の現状が最適水準からどの程度隔たっているか採点し、政策担当者に状況改善の指針を与える活動です。

過去20年以上にわたって住宅電気保安を支援してきたCopper　Alliance（世界銅協会）が活動を推進し、電気保安の世界連盟であるFISUELがプロジェクトを支援しています。

このバロメーターは、住宅電気保安の確保に欠かせない重要な13項目の評価基準を使用しています。各項目にそれぞれ重み付け係数を割り当て、それをもとに総合得点を算出します。各国の現状を様々な側面から多角的に評価しており、製品規格、製造業者の取り組み、設備の点検実施状況、設備工事業者の適格性、規制枠組みの整備状況等が評価対象に含まれます。これら全項目を総合した最終得点が、その国の状況が最適水準からどの程度隔たっているかを示す指標（バロメーター）になります。この得点は自国と他国の状況を比較する目安にもなります。各地の専門家の支援により、採点対象国の数が着実に増加し続けています。採点結果は一般に公開されており、FISUELウェブサイト上でも閲覧可能です。http://www.safetybarometer.org/

アフリカ・ワーキンググループのメンバーが
フランスでCONSUELの研修を受講



発信元：セネガルProquelec　　（屋内電気設備品質向上協会）

FISUEL（国際電気保安連盟）後援の下、仏CONSUEL（電力需要家安全全国委員会）との交流活動として、PROQUELEC（セネガル）、CONTRELEC（ベナン）、TECHNOZ（カメルーン）、SENELEC（セネガル）のメンバーがフランスを訪問し、点検技術者研修を受講しました。研修は下記の大きな2段階に分けて行われました。

2016年9月19～23日：CONSUELでの理論研修

冒頭でCONSUEL理事長が開会挨拶を行い、参加者全員に歓迎の意を表しました。この理論研修にはPROQUELECから3名、CONTRELECから2名、TECHNOZから1名、SENELECから1名が点検技術者として参加し、以下の項目を学習しました。

・低圧電気設備の基準適合性に関するNFC15-100規格の基本的な技術的規則
・住宅電気設備の安全規則
・NFC15-100規格の要求事項に従って新設又は全面改設した電気設備の点検報告

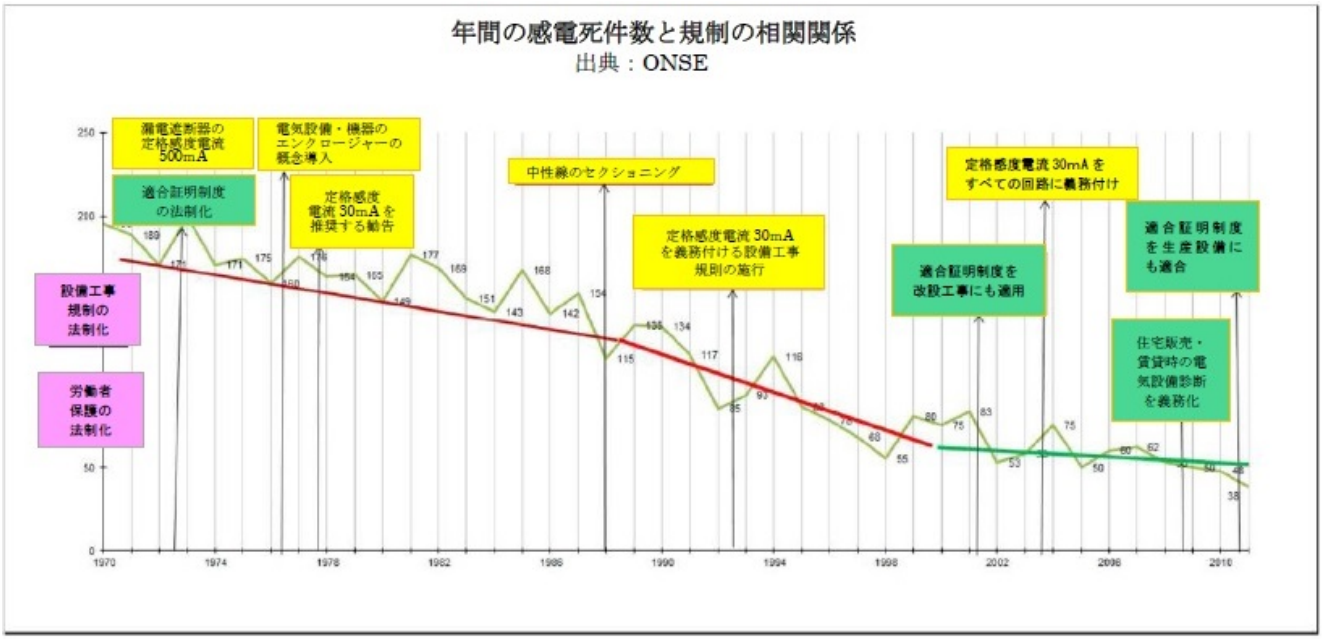
全課程終了時に理解度評価テストが行われ、参加者全員が修了認定に必要な平均以上の得点を獲得しました。研修の最後にCONSUEL理事長が閉会挨拶を行い、各参加者に修了認定証を授与しました。

2016年9月26～30日：CONSUEL担当区域での実地研修

PROQUELECから2名、TECHNOZから1名、CONTRELECから1名で構成するチームがマルセイユを訪れ、PROQUELECから1名、SENELECから1名、CONTRELECから1名で構成する別チームがナントを訪れました。
各参加者が「CONSUEL点検技術者」の立場で、顧客への日常訪問点検を1週間の日程で実施しました。

この実地研修は、理論研修の部で学んだことを実際に応用すること及び制御装置に対する理解を深めることを目的として行われました。
今回の点検技術者研修は、運営面でも研修の内容や目的適合性の面でも大成功と言えるものでした。フランスでの第1段階の研修で点検技術者たちが習得したことをさらに強化するため、ダカール（セネガル）とコートジボワールで第2段階の研修会を開催することを検討しています。その際にはLBTP-SECUREL（コートジボワール）の点検技術者にも今回と同じ研修を実施する予定です。

フランスONSE（国立電気保安監視委員会）からの報告



発信元：フランスONSE-Promotelec

規制整備の歩みに伴なって、感電死報告件数が40年間一貫して減少

フランス国立電気保安監視委員会（以下「ONSE」）が創立20周年を迎え、2015年12月1日の年次総会で「規制と感電死事故減少の直接的相関関係」と題する重要な研究発表を行いました。

創立20周年に当たる2015年はONSEの歴史の中でも重要な転機の年になりました。加盟団体から収集した様々な統計をもとに、規制が感電死減少に与えた真の影響を実証するに至ったのです。2015年12月1日にパリで開催されたONSE年次総会で研究結果が提示され、感電事故による年間死亡者数が1970年の200人から2011年の40人へと、5分の1に減少したことを発表しました。上の図はその推移を示す曲線です。1962年の労働者保護法制定、及び1969年の新築住宅へのNFC15-100規格適用開始の時期から曲線が下降傾向を辿るようになりました。その後も、適合証明制度の導入（1972年）、電気パネルの概念の導入（1977年）、過電流（漏電）遮断器の定格感度電流30mAの義務化（1991年）などに伴って、電気関連の死亡事故の減少が一貫して続きました。フランス国内の人口増加も考慮して、感電事故死亡者数を人口100万人あたりで 比較すると、1970年は3.8人、2011年は0.6人となり、6分の1以下に減少したことがわかります。

電気設備の安全性：共通の取り組み

Promotelecも加盟するGresel（注1）は、消費者団体とともに、住宅販売・賃貸時の 電気設備の状態診断をこれまで実施してきました。両者は現在、共用区域の電気設備の状態点検と適切な接地が施され機能していることの確認を義務付ける法定診断制度の制定に向けた働きかけを進めています 。この取り組みでは、「あらゆる層の利用者、特に消費者に向けた広報（コミュニケーション）運動を確立し、それを通じて利用者を啓発し、リスクの把握とリスク防止につながる習慣 や行動の定着を促進し、利用者が自身の安全を守る能力を高める」ことを特に重視しています。

賃貸住宅内の電気設備（屋内に設置されているもの）のうち、使用年数が15年を超えるものについては、入居者が変わるたびに診断することを義務付ける法令が2016年7月に公布されました。施行予定日は2017年7月1日又は2018年とされており、1975年1月1日以降に　　建築許可を取得した建物に適用されます。これにより、住宅電気設備の安全性のさらなる向上が期待されます。

（注1）Gresel：住宅電気保安調査会

フランス国立電気保安監視委員会（ONSE）について

ONSEはPromotelec協会とCONSUELが共同議長となって1995年に設立された機関です。住宅及び小規模第三次産業事業所における電気関連の火災や事故に関する統計を収集することを活動目的としています。ONSEの中立性を維持するため、これらの統計データは外部データベースを参照して集積しています。収集したデータは、一般市社会の啓発と意識向上に向けた活動や、設備の電気安全性を高め住民と建物を保護する規制導入に必要な定量的情報を当局に提供する活動、フランス国内の電気保安状況をすべての利害関係者（ステークホルダー）に伝達する活動に役立てられいます。この目的で「統計作業部会」を2013年に創設し、DHUP（注2）、消防隊、保険会社、SPF（注3）、学識者、研究機関、消費者、設備工事業者、電気設備機器製造業者、ENEDIS、IGNES（注4）、Consuel、Promotelecなど、多種多様な団体・領域のメンバー65名以上が参加しています。この多彩なメンバーによる異分野間協力の知見をまとめた統計研究をこれまでに140件以上発表しています。

2017年度FISUEL年次大会をインドネシアで開催します（主催：Konsuil及びAlperklinas）

会　期	Konsuil（電気配線安全国家委員会）及びAlperklinas（連合電力需要家保護局）の主催により、2017年度年次大会をインドネシアで開催します。会期は5月8～12日の予定です。 会期中の行事として、3地域ワーキンググループ（欧州、アフリカ、アジア太平洋）、理事会、総会、シンポジウム、視察を実施します。 ***Save the dates***
行事日程	理事会　：　会期初日　5月8日（月） 3地域ワーキンググループ会議　：　2日目　5月9日（火）午前 総会　：　2日目　5月9日（火）午後 シンポジウム　：　3・4日目　5月10日（水）・11日（木） 技術視察　：　5日目　5月12日（金）
FISUELの主な議題	- すべての人々が安全に電気を利用できる社会づくり：住宅、第三 - 次産業等世界各地の統計（電気に起因する火災と事故） - 不正製品対策（偽造品・危険製品） - 広報活動とその実績（安全性、設備工事業者資格認定等） - スラム街の安全電化
スポンサー・講演者募集	上記の議題にご賛同いただけるスポンサーの方、又は上記の議題に関連する内容の講演をしていただける方は、MuliantoGultom（muliantogultom@yahoo.co.id）及びPatrick Aubelis（patrick.aubelis@fisuel.org）までお知らせください。
参加申込	参加登録・申込手続用の書類一式を現在作成中です。

本ニュースレターはウェブサイトでもご覧いただけます（www. Fisuel.org）。

連盟を代表しまして、来たる2017年が会員の皆様にとって素晴らしい1年になり、皆様にもご家族にも喜びとご多幸にあふれた1年になりますようお祈り申し上げます。

（注2）DHUP：住宅都市計画景観局
（注3）SPF：フランス公衆衛生局
（注4）IGNES：情報工学・エネルギー工学・安全工学業界連合会